

令和 6 年度事業実施状況について

1 広島県合同輸血療法委員会

- (1) 実施時期
令和 6 年 7 月 13 日（土）
- (2) 方法
Web 会議
- (3) 議題
 - ア 役員選出
 - イ 令和 5 年度事業報告
 - ウ 令和 6 年度事業検討

2 令和 6 年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業について

- (1) 採択結果
令和 6 年 8 月 15 日付で令和 6 年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業研究計画書を提出した結果、不採択となったが、当初の予定通り、研究事業を実施した。
- (2) 研究課題名
「災害時等における医療機関間の輸血用血液製剤の譲受・譲渡（融通）」の実効性の向上について
- (3) 研究の概要
山間へき地や離島等において、緊急大量輸血の必要性が生じた場合、近隣で在庫していない医療機関も多いことが想定されるため、血液センターからの搬送体制も強化する必要があるが、血液センターが医療機関へ専ら車による陸路での搬送に頼っている現状があることから、陸路が遮断された場合の海路、空路による具体的な搬送手段を早急に検討する必要がある。
そこで、これらの課題を解決する一つ的手段として、無人航空機（ドローン）を用いた空路での搬送体制の構築を検討する。
- (4) 研究方法
血液センターを中心としてドローン輸送の先行事例を調査研究するとともに、本県での実情に応じた体制を検討するとともに、技術力、公益性、安定性のある専門のドローン事業者へヒアリングを実施する。
- (5) 研究結果
先行事例の調査研究及びドローン事業を推進している業者へヒアリングを実施した結果、ドローン機体の使用、血液製剤の輸送条件の観点から課題を抽出した。については、血液製剤を輸送することは、機体の性能や法規制の観点からハードルが高いことが分かった。今後、これらの課題解決に向けた協議・検討を重ねるとともに、引き続き、情報収集に努める必要がある。

3 血液製剤使用実態調査結果利用に関する申請について

(1) 調査目的

令和5年10月20日付で厚生労働省医薬局血液対策課から事務連絡「人免疫グロブリン製剤の安定供給に向けた周知について」が発出されており、広島県内の医療機関からも人免疫グロブリン製剤の限定出荷に関する問い合わせがあったことから、広島県内の人免疫グロブリン製剤の需要供給の状況について把握するため、広島県内の過去5年間の免疫グロブリン製剤の購入量・使用量・廃棄量の推移を確認すること。

(2) 調査方法

令和6年9月13日付で血液製剤使用実態調査結果利用に関する申請を実施した。

(3) 調査結果

提供いただいたデータを基に広島県内の過去5年間の免疫グロブリン製剤の購入量・使用量・廃棄量の推移を確認した。

4 広島県合同輸血療法委員会報告書

広島県ホームページに掲載

5 広島県合同輸血療法研修会

(1) 日時

令和7年2月8日（土） 15：00～17：00

(2) 方法

ハイブリッド開催

現地：広島県赤十字血液センター（広島県広島市中区千田町2丁目5-5）

ウェブ：teams配信

(3) 参加者数

87名（現地：7名、ウェブ：80名）

(4) 内容

広島県合同輸血療法委員会からの報告

報告1 災害時における輸血用血液製剤のドローン輸送に係る情報提供について

報告2 広島県の免疫グロブリン製剤の購入量等の推移について

特別講演

日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター石川製造所 安村 敏先生

「能登半島地震での災害について

奥能登の医療状況と血液センターの対応を中心に」

6 広島県合同輸血療法委員会幹事会

	第1回	第2回	第3回
日 時	4月17日(水) 18:00~19:00	10月7日(月) 18:00~19:00	1月14日(月) 18:00~19:00
方 法	オンライン開催 (Zoomミーティング)		
議 題	<ul style="list-style-type: none"> 血液製剤使用適正化方策調査研究事業について 全体会議について 今年度事業について 	<ul style="list-style-type: none"> 血液製剤使用適正化方策調査研究事業について 血液製剤使用実態調査結果利用に関する申請について 合同輸血療法研修会開催について 	<ul style="list-style-type: none"> 血液製剤使用適正化方策調査研究事業の進捗状況について 献血血液の研究開発等への使用に関する公募(令和7年度使用分)申請について 血液製剤使用実態調査結果利用申請に基づくデータ共有について 合同輸血療法研修会について